はじめに ……7
マリー・キュリーってどんな人？／ポーランドからフランスへ／キュリー夫妻の大発見／悲願のラジウム研究所

第一章 「キュリー先生」とよばれる——女子高等師範学校初の女性教授 ……17
セーヴルの女性教授第一号／ウージェニィ・フェイティス・コットン——未来の女性校長／キュリー先生の家族と女学生たち／先生は女性国家理学博士／キュリー先生、大学教授になる／彼女たちの進路
■コラム1 放射能研究のあけぼの——ベクレルとマリー・キュリー 32
■コラム2 ポロニウムとラジウムの発見——キュリー「夫妻」の共同研究 37

第二章 フランス初の女性大学教授——科学者を育てる女性 ……43
キュリー研究室の始まり／エレン・グレディッチ——肝っ玉姉さんの一番弟子／仲良し三人組の誕生／科学者として母国で働くということ／「留学経験のある女性研究者」への特殊なまなざし／ハリエット・ブルックス——カナダのキュリー夫人／女性研究者に対する偏見／「先生の家」では何が起きるのか／仕事と家庭の狭間で選んだ道／キュリー夫人に対する過度な称賛の意味するもの／多彩な女弟子たち——公爵夫人から母国の同胞まで
■コラム3 放射能研究の広がり——ラザフォードと放射線の正体 67

第三章 研究所が完成したのに——第一次世界大戦の衝撃 ……73
戦争が始まった！／赤十字に叙勲された女弟子／二人のフランス女性／戦争の英雄——イレーヌの愛国心とプライド

第四章 ラジウム研究所（1）——新しい時代の科学研究室 ……85
イレーヌ・キュリー——常識知らずの「母の娘」／科学にも夫にも愛された人生／もう一人のポーランド女性／弟子にして孫弟子——エレン・グレディッチの女弟子／影の騎士「アンドレ」／ラジウム研究所のもう一つの支え
■コラム4 放射能研究から原子の中に——原子の構造を探る 104

第五章 キュリー夫人、アメリカを征服する ……107
あるアメリカ人女性ジャーナリストの提案／キュリー夫人、移民の国アメリカに到着／キュリー先生、アメリカの女子大学を訪問する／スカーレット・オハラとキュリー夫人

第六章　ラジウム研究所（2）——世界からパリへ　……121
狂乱の時代の冷静な科学研究所／文理両道だったラジウム研究所の主／音楽と科学を愛する兄妹／アカデミーに認められた女性／技官から科学者になる／女性の新しい職業／ナチスのユダヤ人迫害と女弟子たち／原爆製造への協力／もう一人のユダヤ人女弟子／ノーベル賞を逃す／母国で女性第一号に——ウクライナ初の女性大学教授／東ヨーロッパの複雑な政治情勢／オランダの女性第一号／ポルトガルの女性第一号／お料理とお裁縫とお掃除と——「兼業主婦」マリーの告白／「家庭科」教育の変遷／いろいろな女弟子たち／ルパンとラジウム／女性の「運命」——美しき公爵令嬢の「自由」とは何か／女性の職業選択

■コラム5　中性子と人工放射能——ジョリオ＝キュリー夫妻の失敗と成功　157

第七章　「キュリー先生」と三人の日本人　……163
山田延男と小野田忠／ナンバースクールを出ていない秀才たち／科学者と実業家の指導者として／フランスの先生、フランスの先輩たち、姑、妻という女性教育者・研究者に囲まれて／湯浅年子——日本が誇る「キュリー先生」の女孫弟子／おかしな「共学」生活／男子留学生と女子留学生の「差」が物語るもの／コレージュ・ド・フランスに属して／フランス国家理学博士号を目指して／日本人女子留学生はなぜ「純粋」だったのか／敗戦の祖国で見たものは／欲しいのはただ、魂の「自由」だけ／いまひとたびのパリを／ジョリオ先生の完璧な招聘状／フランスと日本の狭間で／湯浅年子はなぜ帰国しなかったのか／パリに生き、パリに死す

■コラム6　原子を壊した実験——原子力の時代へ　202

第八章　異色の「女弟子」——エーヴ・キュリー・ラブイス　……209
科学者にならなかった「母の娘」／母はいかにして子どもの才能を応援したのか／絶世の美女の孤独／伊勢海老事件の顛末／戦時ジャーナリストとして生きる／二人の「戦士」を育てた母が得たもの

おわりに　……223
キュリー先生の女弟子／科学における男と女のキャリアの差／ロール・モデルとしてのキュリー母娘の意味／シスターフッドと「ブラザー」たちの協力／日本人男子留学生にとってのキュリー先生——祖国愛への共感／キュリー先生が女性たちに残したもの

あとがき　235

マリー・キュリー関連年譜　240

参考文献　261

人名索引　267